

令和5年度宅地建物取引士試験 解答速報

2023年10月15日19:00現在

問1	1	問11	4	問21	2	問31	4	問41	2
問2	1	問12	3	問22	1	問32	4	問42	3
問3	2	問13	2	問23	1	問33	1	問43	4
問4	4	問14	2	問24	4	問34	3	問44	1
問5	4	問15	4	問25	4	問35	4	問45	4
問6	3	問16	1	問26	3	問36	3	問46	2
問7	3	問17	3	問27	4	問37	3	問47	2
問8	3	問18	1	問28	3	問38	2	問48	1
問9	2	問19	1	問29	2	問39	2	問49	2
問10	3	問20	4	問30	1	問40	4	問50	3

TACが予想する合格基準点は、37±1点です。(10/15現在)

※次ページの講評もご覧ください。

※当解答速報はTAC独自の予想であり、解答及び合格基準点を保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合も
ございます。

※この解答速報の著作権はTAC株式会社のものであり、無断転載・
転用を禁じます。

TAC 宅建士講座

令和5年度 宅地建物取引士試験 講評

【全体】

- 令和4年度の宅建士本試験と比較して、易しくなった。得点しやすい問題が増えたため、全体の合格ラインは少し上がると思われる。

【民法等】

- 出題の形式面では、昨年の本試験と同様、個数問題が出題され、問1で判決文型の出題がなされた。また、組合せ問題も1問出題された。
- 出題されたことのない分野からの出題もあったが、「民法等の問題は難しい」との予想の下、基礎力をしっかり身につけている受験生にとっては、正解を導くのが難しくなかったようである。民法等全体の合格ラインは、例年程度と思われる。
- 合格ラインは7点程度。

【宅建業法】

- 難易度は、昨年とほぼ同様。
- 個数問題は例年より多く7問。組合せ問題は出題されなかった。
- 電磁的方法による提供が5問10肢、押印廃止が2問2肢出題された。
- 合格ラインは17点程度。

【法令上の制限】

- 基本・応用論点を中心とした「主要6法令等」からの出題であった。
- 建築基準法2問のうち1問は、過去問にない未出題論点が含まれていたが、解答は容易であったと思われる。
- 宅地造成等規制法は既に改正済みであるが、改正後の「宅地造成及び特定盛土等規制法」と変更のない論点が出題の対象となった。
- 国土利用計画法3肢は基本論点であったが、この設問の中に、改正対象の「重要土地等調査法」が1肢含まれていた。
- 個数・組合せ問題は出題されなかった。
- 合格ラインは7点程度。

【その他関連知識】

- 問23～25のうち、税法2問（印紙税・不動産取得税）は細かな論点の選択肢もあったが、準備をしっかりとっていた受験生は、正解を絞り込めたと推測される。不動産鑑定評価基準は、正解肢が明確に判断できることから、ほとんどの受験生が正解できたであろう。2問の正解は確保したい。
- 問46～50は、問48の統計について判断が難しい選択肢が散見されたものの、他の問題は正解肢の絞り込みは比較的し易かった。4問の正解は確保したい。
- 8問トータルで見ると、例年とほぼ同じで点数は取りやすかった。
- 合格ラインは6点程度。

以上